

## 第2回琴平町学校等再編整備検討協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年7月24日(月)  
開会：19時00分 閉会：20時30分
- 2 場 所 琴平町総合センター2階 大ホール
- 3 出席者 【委員】 28名中24名出席(委任状2通)
- 【事務局】 町長 片岡英樹、教育長 篠原好宏  
生涯教育課 課長 山下敏信、生涯教育課学校整備推進室長  
真鍋 聡、課長補佐 並木幸司、課長補佐 山下陽一、平原徹  
技師 川原聡明、主任指導主事 森江克典、主任指導主事  
尾崎定義  
総務課 課長 造田泰  
子ども・保健課 課長 西岡敏、課長補佐 大西孝幸
- 4 傍聴者 有(8名)
- 5 議 事 (1) 小学校及び認定こども園の統合について

(事務局)

失礼します。

それでは定刻が参りましたので、ただいまより、第2回琴平町学校等再編整備検討協議会を開催いたします。

本日は委員さん、24名出席と、委任状が2通提出されておりますので、本日の会が成立したことを報告いたします。

最初に会長挨拶をお願いいたします。

(会長)

皆さんこんばんは。

夕刻のお忙しい中、この会のためにお集まりいただきましてありがとうございます。

先日、第1回の会合が開かれまして、2日後の四国新聞の朝刊に、この会が開催されているという報道がありました。その後、今日に至るまで、私は大変たくさんの人から多くの激励をいただきました。琴平町が抱えている、本当に大きな問題だと。ぜひ、会長さん、しっかりと話し合いをしていい方向にまとめてくれと。いうことで、もう本当にこれはもう以前から何度も何度もこういう形でできていてもなかなか進まない。

ぜひこの機に、もう今度こそ今度こそ、しっかりとこの琴平町の子どもたちのために、しっかりと討議をしてまとめて、いい方向に進めてくれと。そういう激励をたくさんいただきました。そういう皆さんの思いが本当に琴平町の皆さんの思いが本当にこのこの会に詰まっているということを、改めてその責任の重さを感じておるところです。

今日はまた後程に議題を言いますけれども、ぜひ第1回の時にはですね、様子がわからなくてなかなか意見を言うのも、言いにくかった部分もあるかと思えます。せっかく委員として、ここに出席をいただいておりますので、それぞれの立場でぜひ意見を述べていただけたらと思えます。

ただ、検討委員会としては、一つの方向にまとめていかなければいけないというのがありますので、いろいろな立場の意見を言っていただく中で、ではどういうふうにまとめて進めていくのが一番いいのかというのをとりまとめていければと思いますので、まずはですね、おそらくこの2週間の間に、皆さんのそれぞれの学校や園で、いろんな意見が出ているのではないかと思います。そういう意味で、ぜひこの後、それぞれの議題に沿って、そういう意見をしっかりと出し

ていただいて、それぞれの考えの中でどういう方法が一番いいのかというのを皆さんと一緒にまとめていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。  
お忙しい中来ていただいてお願ひします。限られた時間中ですけれどもぜひ有意義な協議会になったらと思いますので、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

(事務局)

それでは議事を会長より進めていただきます。

(会長)

はい。

それでは、前回の振り返りにつきまして、確認をしたいと思ひますので、事務局の方からお願ひいたします。

(事務局)

では、前回第1回の振り返りをいたします。委員より、教育なしにして町の発展はない。今回がラストチャンスである。また、複式学級が他人ごとではなくなったという意見がありました。

また、平成20年度と平成28年度はなぜ統合が進まなかったか、という質問がありました。そのことについて町長より平成20年は地域の方の意見によるところや、小学校の耐震ができていなかった状況、平成28年には中学校が危険建物となったために、先に中学校の方を先行したため小学校が取り残された。などのいろいろな原因があったということの説明を行いました。

さらに、いずれかのこども園に集約すると、駐車場や施設が手狭になるなどの意見や、現時点において新たな土地はあるのかという質問に対して事務局より、平成28年度の時に、新たな土地の候補があったが、その時と現在の状況は概ね変わっていないので、候補地は何ヶ所かあるとお答えいたしました。

また、本協議会で決まったことは、駄目にならないかという質問に対して、町長が、本協議会で具体的に場所等話し合い、教育委員会と町で方針を決め、責任を持って進めていくという決意があるとお答えしました。

現場の校長先生からは、児童数が少ない中、努力しながらやってはいるが、限界がある。

豊かな心を育むために、いろんなことを経験させてあげたいという意見。また委員より3小学校の光熱水費が1000万円、修繕費が300万円から500万円かかっており、またこども園の方も光熱水費が500万円かかっている。こども園の修繕費は200万円から300万円等を使っているというものが主な意見でした。以上が前回の振り返りといたしまして事務局より報告いたします。

(会長)

はい。

ありがとうございました。

それでは本日のテーマについて確認をしたいと思ひます。本日は小学校3校、それから、こども園、北南それぞれの統合についてどういうふうを考えていけばいいかということを中心にして、今日ある程度の方向性を見出していきたいと思ひます。その関連で、資料の方は今日配布されておりますので、資料の方の説明を先に事務局の方からしていただけたらと思ひます。

事務局よろしくお願ひします。

(事務局)

では資料に基づきまして説明させていただきたいと思ひます。本日お配りしています資料は緑色の琴平町学校等再編整備検討協議会資料(第2回)と記載しているものでございます。同様のものが、プロジェクターのスクリーンに映し出されていますので、そちらの方でも確認をしていただけたらと思ひます。

では1ページ目の方をご覧ください。こちらの資料が、前回の第1回目協議会の際にお配りしましたものの内容について記載しております。前回配布しました資料2ページの「これまでの経緯について」というところに記載していたのは、経緯が主なものであり、内容についてあまり触

れてなかったと思います。今回はその内容につきまして記載させていただきましたので読み上げたいと思います。

答申(平成 28 年 3 月)琴平町立小学校適正規模適正配置等検討委員会が提言というものでございます。今回は当初の抜粋を添付させてもらっております。

この資料と同様のものが添付資料の中にもあります。これはプロジェクターの方には投影できておりません。「琴平町小学校の適正規模適正配置について(答申)平成 28 年 3 月 2 日」というもので A4 の縦版です。字がちょっと小さいですが、これを抜粋したものを記載しております。その答申の中に記載されている主なもの 2 点を挙げております。

読み上げます。町立小学校は 1 小学校 1 中学校とすることが望ましい。2 点目としまして、町立小学校の適正配置に関することについては、新たな土地を確保し、新たな統合小学校を建設することが望ましいと考える。ただし、財政状況や用地取得の交渉期間等を的確に推計した上で、状況によっては、既存の学校用地(中学校)を利用することも考慮していく必要があると考える。と記載しております。こちらの内容が先ほどご説明しました、答申の 1 ページに記載されている内容と同様のものとなっております。またお配りしました同資料の 4 ページ以降に、なぜそうなったのかという考え方なども記載されております。

続きまして 2 段目です。

この答申に基づき作られました、琴平町立小・中学校再編・改築整備基本方針(平成 28 年度)。琴平町教育委員会が作成したものです。

これは前回の第 1 回目の協議会の際に配布した、平成 29 年 1 月 26 日付で琴平町教育委員会が作成しました、琴平町立小中学校再編改築整備基本方針を要約したものでございます。

読み上げたいと思います。

1 点目としまして、答申に沿って 3 小学校の校区からほぼ均等にあり、町の中心付近の土地に新たな統合小学校を建設する。

2 点目としまして、将来の社会の変革にも対応できるような設備を整備し、地域との共生を図れ、防災の拠点ともなれる校舎を整備するというものとなっております。

次に、3 段目です。琴平町公共施設整備構想(案)、令和 3 年度、こちらについては琴平町が作成したものでございます。

今回この資料につきまして添付はしておりませんが、内容としましては、1 点目、小学校を 1 校に統合するとともに、一つのこども園に統合し、教育環境の充実を図る。

2 点目としまして、町南部には、私立保育園や中学校があり、送迎や防災の観点から、町北部に町立の新こども園及び新小学校を設置という内容となっております。

こちらが、平成 28 年の答申から、令和 3 年度の構想までの主な内容というふうになっております。

続きまして 2 ページ目です。

こちらは前回の資料の抜粋版という形になっております。

第 1 回目の協議会の際にお配りしました、就学前の児童 0 歳児から 5 歳児と令和 5 年度の町立小学校の児童数 1 年生から 6 年生を縦に連続して並べたものとなっております。

こちらの資料を改めてなぜ付けたかと言いますと、こちらの表の右の合計欄を見ていただきますと、この合計欄がイコール生徒数ということになりますので、令和 5 年の小学生の児童数の内訳については、これが現状でございます。

0 歳から 5 歳児につきましては、0 歳児が小学 1 年生になるのは、令和 11 年度になります、つまり 11 年に入学する 0 歳児の合計は、町内で 25 人という形になります。

令和 10 年度の入学者が現在の 1 歳児ですので 30 人、令和 9 年入学が 2 歳児で 36 人、令和 8 年度入学が 3 歳児 46 人です。それらが目で見えてわかるような形となるように資料に入れております。

事務局からの資料に基づきましての説明は以上となります。

(会長)

はい。

ありがとうございました。

前回にも提示されたものをさらに少し、28 年の答申、それから基本方針、それから町の令和 3

年度に考えております構想案というようなものが出されております。それからさらにまた、今の子どもたちの現状、人数がどの程度で推移をしておるかというようなことについても、そこにありますように、今の0歳児が今度入学する際、この計画でも6年後にということで今進めておりますが、その際の1年生入学生が25名、6年生まで全部入れても、町内全部の小学生が227名ということで、転入、転出と多少あるかもわかりませんが、その程度の人数しかいない、非常に厳しい状況になっております。それではですね、今出されておりました、28年度の答申、或いはそういう中身を見ましても、もうほぼほぼこれまでもいろいろな議論が尽くされているにもかかわらず、なかなかまだ動いていないということです。

先ほどお話しましたように、ぜひ今回もこの会で、これらの答申でいろいろ議論されておることをさらに深めて、深めてというかも本当に最後の答申というような気持ちで進めていけたらというふうに思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

まず今日はですね、最初に小学校の統合についてそれぞれの立場から、またご意見をいただいて、そのあと、今度はこども園の統合ということで二つに分けてお話をしていけたらなというふうに思いますので、まず小学校の3校をどういう形でまとめていくかということについて、ご意見をいただけたらというふうに思います。

先日もお話しましたように発言の際には所属、お名前を知らせていただいた後に発言をいただけたらと思います。

私の方で指名をしますので、どうぞ積極的に、それぞれの立場でのご意見をいただけたらと思います。よろしくお願ひします。

(地域枠B委員)

最初に小学校の統合ということですが、私が教育委員になったときに、平成28年3月2日の答申を元に、これが決まって町議会で、小学校の統合に関して議決された。私が教育委員になったのは、平成28年の12月です。

この12月になった直後に、四国新聞の町議会だよりというところに、琴平町の町議会が、小学校の統合に関しての議案を可決したというのが載ったのです。ということは、それを見たら、小学校の統合はこれで進むのだなと思います。だから、答申を受けて、議決されたから、もう進むのだと私は教育委員になった時に思ったのです。ところが3月になって、議会で否決されました。そこから話が振り出しに戻って、結局、今日に至るわけですが、その後ですね、前町長の時に、8月に各3小学校の校区でのPTAの集まりという中で、統合問題について意見を聞く住民説明会というのがあったのです。

8月頃だったと思いますが、それがあったところいろんな意見が出たのですが、それが、結局収集がつかなかったのかどうかわかりませんが、その説明会が終わった途端に統合の話が切れしました。その説明会の後にどんどん意見が出てきて、話が進むと思ったら、逆にそこでびたっと止まってしまったのです。それが今まで長引いている原因の一つだと思っているのですが、そのことについて、町長どう思われていますか。

(会長)

町長さん、今の答弁いけますでしょうか。

(町長)

最初にこの、今日の資料にあります、1ページに答申というのがあって、そのあと平成28年度に方針って言うのでこれは教育委員会が作っております。今議決の話ですけど、当時私は議長でおりました。

琴平町議会が平成28年の12月に、小学校を町立小学校1小学校1中学校とし、新たな土地に新たな統合小学校中学校を建設する。平成33年春の開校を目指すようにということで議決されたことを言われたかと思います。

その後、住民説明会とか保護者説明会等については、十分な情報がございませんので、その説明はちょっとできません。以上です。

(会長)

いかがでしょうか。よろしいですか。

(地域枠委員B委員)

そのことについては、いろいろあったと思いますけども、その後しばらく、ずっと状況が止まった状態になっていたのですが、前副町長が就任された時に、新たに公共施設整備構想というのがまとめられました。これは教育委員会の中でもいろいろと議論をしまして、私もその案を見ました。結構よくできているなと思っていました。現状既に、こども園が発足しています。この平成28年の答申の中にはこども園は出てきていません。まだ保育所、幼稚園で分かれた状態だったので、こども園に関しては全く出ていませんが、実際はこども園がスタートしています。ということは、町の公共施設整備構想が実質的にスタートしていると同じだと私は思っています。

ですから、この構想案というのがこの協議会に提出されていないのが不思議だなと。あれを一つのたたき台にして、議論ができないものかと、あれをたたき台にすることでまた議論の方法が、別の方向に持っていくのを危惧しているのであれば、それはどうしてかと、そこら辺のところ町長どうですか、たたき台としてはここには出せないのですか。

(会長)

お願いします。

(町長)

整備構想案については、最初の答申というか私の話にあったのですが、ベースにあるのは教育委員会の基本方針であって、令和3年に町で策定した整備構想案につきましては、参考ということであります。会長が先ほど冒頭で言われたように、まずは統合について確認した上で、その次の段階にて、新しい土地、または今の構想案のような、次の段階に進むべきでないかと思っておりますので、今はまず小学校一つにするかどうかということを確認いただき、今日はその具体的な説明は予定しておりませんので、そこはちょっと確認していただきたいと思っております。

(会長)

はい。

ありがとうございます。

地域枠B委員の方からは、やはり前回の経緯の中で、本当にもうお話ができていたにもかかわらず進まなかった。今回、同じことを繰り返されたのでは困るという思いではないかと思っておりますので、ぜひその点についてはですね皆さんも含めて、もうここで一つ方向性が出たら、しっかり覚えていただくというふうなことで進めていけたらと思っております。そういった意味で、時間的にも厳しい中ですので、ぜひ、まずは小学校の統合についてご意見をいただけたらというふうに思いますので、小学校の保護者の皆さん或いは学校の関係の皆さんからも含めてですね。3つの小学校をどういう形にしていくのが、この琴平町の子どもたちのために一番いいのか、そういうことでご意見をいただけたらと思っております。

(委員：琴平小学校校長)

小学校の統合によって児童の人数が増えることの良さについて、学校の取り組みとあわせて、あまり小学校のことは、まだご存知ない方もいらっしゃると思いますので、子どもの立場に立ってお話をさせていただきます。

子どもたちは、常に新しいものを求めています。

同じことの繰り返しでマンネリ化すると、やっぱり学校は面白くないとか、楽しくないなど思いがちになります。また子どもたちが自分以外の子どもたちの多様性、もう今はもう多様性という時代ですので、それを認めて、主体的に活動できる教育活動を工夫して行っています。そのために、琴平小学校では、思い切って週時程を変えて、子どもたちが、子どもたち同士で触れ合い楽しみながら、学校生活が送れるようにしています。他の学校もよくしていくことですが、4色の縦割りグループで、低学年とかと活動をしていくことがあります。でも、もし人数が増えた場合には、学年間の、そういう活動がどんどんできるだろうな、発達段階に合わせた活動

ができるだろうなと思っております。それから、活動の中心として、子どもたちを使います。やっぱり子どもたちが主体的に動くということが大事ですので、6年生だった、20名なのですから1人1役で一生懸命活動しています。でも、もっとそれも人数が増えることによって、その一つの役をどうやっていくかという話し合いができるだろう。もっとよりよく子どもたちがやっていきたいものがあるわけだろうなと思っております。

次に、学級経営についてです、学年1学級ですので、クラス替えもありません。どうしても子どもたちの集団は固定化された変化のないものとなってしまいがちです。それによって、良い面もあるのですが、友達関係をうまく築けない子どもさんにとっては、とても厳しい面があるのではと思います。自分とうまがあう友達に出会う機会が減ってしまいます。大きないじめはないのですが、この学級にいるのがちょっと辛いと思う子もいるのが現実です。

その上で、やはり保護者の方もそのことについて大変悩まれて、相談されるということもあります。子どもたちにとって友達との関係というのは、家族と同じぐらい大事だと思っておりますので、多くの仲間がいればいるほど、その中で心を許せる仲間も増えて、心の安定が図れるのではないかと考えております。

次に学習についてです、子どもはこれから生きていく中で、自分の意見を述べることとか、他者のとの対話とか議論ということはとても大事になってきています。タブレットとか電子黒板とか、そういう ICT 機器をとっても充実していただいてありがたいのですが、やはり子どもが主体的に授業に取り組んで、もっと学びたいという意欲を持つためには、子ども同士の協働的な学びというのがとても大事です。子どもの人数が多ければ多いほど、いろんな考え方に触れて、新しい考え方によって自分の考え方が変わるなど、何かそういう議論が面白いなとか、楽しいなと思うことがやっぱり増えてくると思います。それによって、学力がついてくるところが、とても望ましいところではないかなと思います。子どもたちを取り巻く関係というのは、我々が子どもの時とは違います。常に大きく変化しているし、その中で子どもたちは一生懸命、自分の力を伸ばしています。子どもたちを目の前に見ながら、やはりベストな状況で、子どもたちの成長を見守っていききたいと思っておりますので、ぜひご協力をお願いできたらと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。

学校の立場からのご意見をいただきました。

先ほど事務局の方から資料が提出されておりますが、もし3校が今一緒になったとしても、各学年のクラスは2クラスです。今の0歳児が入学した時は25名しかいません、クラスが1クラスしかできない状況です。学級のベースは変わるかもわかりません。35人を超えると2クラスになります。従って、3つが一緒になっても、クラス数としては2クラスできるかできないかというような現状です。

その中で琴平小学校の校長先生から、やっぱり子どもたちが、いかに対話を大事に子どもと子どもの関係を大事に、いろんな力をつけていくことができるのかというようなことで、やはり人数的にはある程度の人数が確保された中で生活できる方が子どもたちにとってはいいのではないかというご意見をいただきました。他の立場からいかがでしょうか。

(保護者A委員)

小学校の統合に対しては、ぜひ早急にして欲しいと僕は願っております。今の第1回、2回の案では、令和11年度ぐらいに、小学校の統合と新築できるような計画になっていると思うのですが、それじゃなく、今の既存の小学校を使って、榎小・琴小をまず合併してそのあと3つになるとか。何かいろいろな方法あると思うのですが、今僕らが言った案が、そういう形で進んでいくものなのかどうなのか。

(会長)

それについてはですね、いろんな立場の意見があると思いますので、そういう意見を出していただく中で、どういう方向がいいのかというのは、この協議会としての意見としてまとめていけたらなと思っております。今あったように、以前は2校を先に統合して、2校というのは、琴平と榎井です。そして、象郷がそのあと一緒になってきたらどうかというのが、平成20年にありました。

ただ、先ほどから出ております、子どもの数からいきますと、もうそんな猶予はないぐらい子どもの数が減っております。だからそういう状況の中で、今までのように2校を1校としてするのがいいのか、いやいやもうこれはもう3校一気にやらなければいけないと思うのか、そういうことをぜひ、発言してください。この協議会としてどういう方向がいいのかというのをぜひ取りまとめていけたらなと思っております。こども園の保護者の方、関係者の方もぜひお願いします。

もう子どもたちがさっき言ったように、この話が出来たとしても、今の小学生は卒業してしまいます。小さな年齢のお子さんたちが入ってくる時に出来るので、私個人的な意見なのですが、事務局の方も6年後と思っております。もういろんな人の話を、先ほども言いましたが、私が会長することになって早くしてくれと、いつまでそんなことを言っているのかと、先日ちょっとお話がありました。自分たちが子どもの時にそんな話が出て自分の子どものことについて、またお話ししなければいけない。保護者Pさんからも先日お話がありました。だからできるだけですね、もう皆さんの意見がまとまって、事務局の方、また町の方が動いてくれるのであれば、もちろん色々な担当があると思いますが、できるだけ早く実現できたらなという思いは個人的には強く持っております。だからそういう意味でもですね、この会もできるだけ皆さんがしっかり意見を言っていた中で、方向性をはっきりと出していけたらなと思っております。だから、ぜひそれぞれの立場でいろんな意見を出していただくことがありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(保護者P委員)

今自分の子どもが、あかね保育園に通っています。実際にマイクまわしたら、多分合併しないほうがいいっていう人いないと思います。おそらく。あと、個人的に思うのは、本当にすごく小さな町で場所どうこうよりは、もう早く一つにという気持ちが今ものすごく強いです。なので、多分もう皆さん気持ち的には一緒だと思います。なので、どこというよりはもう進める、どうやったら進められるかみたいな議論をしていきたいなという気持ちがあります。

例えば、ここで出した意見が通らなくて、もうだんだん、じゃまた次に決めましょうってなったら、そのたびに子どもは年齢を取っていくし、琴平の子育て世代からしたらそういうイメージがついてしまっていて、例えば、地域外から今琴平に来ようと思う方にとってものすごくデメリットになっていると思います。それだったら、子どもがたくさんいるところに行きたいと多分誰もが思う。今は、ここに縁があるとか愛がある人がここに住んでいたりしていますが、できるだけ早くという気持ちは一緒だと思うので、あとは場所かなというのが、今の意見です。

(委員：南こども園長)

今保護者Aさんの方から2校と1校、それから3校同時という話が出たときに、こども園の立場から言わせていただくと、こども園を1つにするのだったら、1つの小学校と一緒に、できたら同じ敷地の中で、生活をさせてやりたいです。今、こども園の方では小学校とどのように円滑に接続していくかというのがすごく大事にされています。

そうすると、1つのこども園にしていくのだったらその中で、目の前に小学生の子たちが、一生懸命、楽しく動いて学習して、そういうのを間近で見ることによって、こども園の子どもたちが、ああいう小学生になりたいなということを感じ、カリキュラム的に言えば、小学校で1年生はスタートカリキュラムがあって、こども園とうまく接続するようなカリキュラムがあります。職員もそのスタートカリキュラムがあるのは知っているのだけれど、内容までは知らない。それが一つの敷地の中に、1つの小学校と1つのこども園ができれば、そういう先生方の交流や、お互いにどんなふうに学びを作っていくかというのがわかりやすいかなと思うので、私の考えは3校を一緒にしていただく方がうれしいです。2校と1校だったら今とあまり変わらないのではないかなと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございます。小学校の統合についても、保育園の、こども園の立場から言っても、1つにして、繋がっていくような形をぜひとって欲しいという意見をいただきました。他にいかがでしょうか。

(地域枠A委員)

私自身も教育の方に身を置いていたものとして、一言意見を言わせていただきたいと思います。もう、琴平町の児童数を考えても、もう待たなしの状況に今、現在ではなっているのではないかと思います。大変申し訳ないのですが、榎井小学校では男の子が9名、女の子が1名、今年度6年生2人になりました。5年生の時に、女の子1人で、宿泊学習に行った時に、養護の先生と一緒に寝るような形をとったわけです。宿泊学習と言ったら、子どもにとってはすごく楽しい学習の中の一つだと思うのです。それをやっぱり友だちと部屋でいろんなことをお話ししたりとかそういうところにも教育的な効果があると思うのですが、1人だけではそういったことができません。

だから、そういうことを考えたら、もう私は2校があとから1校というのではなく、もう今すぐにもでも統合して欲しいという気持ちでいっぱいです。それで、仮に令和11年度になるとしても、資料としていただいた内容からも、どんどん子どもの数が減ってきて2学級になるかどうか、ひょっとしたらわからないような現状になっている。

ぜひ、この機会に統合を推し進めていきたい、言っていただきたいと、町長さんの、本当にもうやるぞという決意を私は聞きたいと思います。以上です。

(会長)

ありがとうございます。

今榎井小の実情が出ましたので、榎井小の校長先生も見えておりますのでちょっとその辺りの実情をお話いただけたらと思います。

(委員：榎井小学校校長)

先ほど、今の6年生の例が出ました。昨年度は9名と1名でした。今男女平等で、ジェンダーの時代でもありますが、やはり宿泊とか、泊まるとか、風呂に入るとかというのはやはり今の男女の話があります。たまたま2月に1名転校してきたお子さんがちょうど女の子だったので、今度の修学旅行、これは2人部屋として何とか泊まることができます。今までいた女の子も、もう1人の女の子が来たということで、座席も教室の席を近くにして非常に仲良く過ごしております。こういうところを見ると、この資料にありますように、もうこれから先、本校と同じようなことが起きてきます。1学年が、10人を切ってしまうところ、榎井に限らず、琴平小学校でも、今の0歳児・3歳児辺りはもう一桁となっております。実際一桁で、学校がどんな様子か。

例えば、今1年生と2年生が8名と8名です。昨年度は8名と12名でしたので、運動会の時の演技が20名いました。低学年の部20名、これが多いのか少ないのか、自分が初めてこの学校に来たときは、少ないながら子どもの出番をいっぱい作って、担任とか、非常に工夫して演技をしていました。今年が初の1年生2年生が16名だったので、実は本部委員会で提案しました。このあまりに少ない16名で演技をするのが果たしていいのか。もしくは3年生まで一緒にして、ちょっと大がかりというか、人数を増やすという案をしたのですが、保護者の立場からすると、やはり低学年1年生と3年生、人数だけくっつけるのではなくて、やはりそれぞれの発達段階があるから、3年生にとっては1年生と同じ演技をしてしまうと、物足りないのではないかと、逆にレベルを上げると、先ほど南こども園長からあったように、園と小学校の連携がありますように、スムーズな連携をするのに3年生に合わせて急に難しいダンスにするというのも、やはり無理があります。結果的には保護者の方は、人数はかまわないので子どもたちの頑張る姿を見たいということなので、実際は16名で低学年の部のダンスをしました。今年も担任がだいぶ工夫したので、16名一人一人が輝けるそういうことができました。

しかし、やはり人数がたくさんいればそれだけ見応えがあるものができます。少ないからでき

ないということはありませんが、やはり人数の多さは子どもたちの励みにもなるし、競い合う力も、もっとよりよく上を目指そう、そういう力が育ってくることは確かです。ちょっと現状説明付け加えさせていただきました。  
失礼します。

(会長)

ありがとうございました。

町長さんの方の決意をというようなこともあったのですが、もう改めて確認するまでもなく、もう町長さんは、今回は本当にもう、やってくれると私は信じております。ぜひ町長さんよろしくお願いします。あといかがでしょうか小学校の統合につきまして、いろんな意見が出ておりますが、それぞれの立場でどうでしょうか。

(保護者M委員)

資料を見てみても、ちょっとびっくりするぐらい榎井小学校の人数が少なすぎて、私の子も来年から榎井小学校に通うのですが、やっぱり最終的には1校に統合するのが、もう当たり前だと思っておりますが、現状から考えて、令和11年度までは長いなというのがあって、来年から私の子が入るとなると、令和11年度だったらぎりぎりなので合併して過ごせるかどうかという時だと思えます。その下に妹もいるのですが、3学年差で3年間なので、そこに通えるかなって感じですけど、今、案で出ているということは早くて令和11年度だと思っております。

だから3校には早くなって欲しいのですが、すぐに3校にできないのだったら、場所の問題もあるかと思うのですが、自分の子のことを考えたら、やっぱり榎井小学校って男女の差も激しいし、もう2校でもいいから、一緒にして欲しいっていう気持ちが正直あります。何年か前に榎井小学校にするか琴平小学校に、どっちにまとめるかについて、やっぱり保護者の中でも意見の違いがあったと思うし、難しいとは思いますが、もうちょっとでも人数を増やして欲しい。

とりあえず1桁の人数は避けたいっていう気持ちが強くて、だからちょっとその3校になる前に、令和11年度までかかるのだったら、その間に2校っていう案も考えて欲しいです。最終的には絶対1校にして、南こども園長も言ってくれたように、こども園と3校が一緒になって、お互いに学べる場があって欲しいのですが、2校も頭に置いて欲しいと思います。  
以上です。

(会長)

はい。

もう、すぐに自分の子どもさんが入学することを考えると、本当に切実な問題があるということです。ありがとうございました。いかがでしょうか。

(保護者R委員)

今のお話、多分、どの親御さんも、令和11年だったら皆さんもう自分の子どもがそれぞれ卒業するのかなと思います。本当に少しでも早いこと、人数的にも、今すぐにでもというぐらいですね。さっき言っていたみたいに、新しい土地ってなってくると、大体どこの町も県もそうですけど、土地は候補があってもそこから進む、たいがい予定よりも大幅に遅れる、道路だって、子どもの頃にできるとか道路がいつまでたってもできないみたいな工事はいっぱい出てくるので、まだ現段階で候補地、これからこの土地の方たちと話をすると、おそらく11年度は無理じゃないかなっていうふうに思ってしまう。他の町の方とか大きい市とか、大きなところも含めてですけど、結構コンパクトに2階に体育館があって下が教室とか、そういった形で、ある程度土地が決まったサイズでも、学校として組織ができているようなところあると思うのです。自分が子どもの頃に知らなかった、2階に運動場だとか、2階に体育館があるとか、そういうのが世の中にはあるというふうに聞いていますし、それであれば、今現在の土地、今ある学校を改修であったり改築であったり、もしくは少しそこから周りの土地の方にちょっと広げていくとかであったりっていう方向で、本当にすぐにでもスタートできないものかなっていうふうに感じます。新しい土地ってなると、多分これ本当に私の孫の世代になると違うかというふうに心配します。な

ので、今ある土地を活用できないのかなっていうところ、そしたら、もしかすると6年後とは言わず、3、4年後、さすがに2年後というのは難しいと思うので、せめてそれぐらいに短縮できるのではないかなと。新しい土地を買う必要がなければその分予算を、校舎の方の建築の方にもまわせると思いますし、あともう一つ、私以前ニュースで見たのですが、学校の先生の数が足りていないような話、ちょっとよそで聞いたことがあります。

今3校で、同じ学年を考えたら3クラスあるってことですよね。それ統合して2クラスになってきたら、教員の方もある程度余裕が出てきて、子どもたちに対する教育にちょっと厚みが出るのかなと思います。その辺もちょっと以前ニュースで見て、関心があったので、そういった面のメリットはどうなのかなっていうところもちょっとお伺いしてみたいなと思います。

(会長)

ありがとうございます。保護者Rさんの方は、とにかく早くできる方法を考えて欲しい。統合については、まず2校統合という方向でお考えのようです。もう一つ、今小学校の先生が本当に足りて大丈夫かというようなことです。教育長さん、現状いかがでしょうか。

(教育長)

全国的に教員が足りないというふうなことで、話題になっておりますが、本県でも足りない状況ではありますが、本町ではありません。本町は既定の数の教員が配置されております。統合すれば、先生の数というのは、学級の数によって配置されますので、今ですと、小学校が普通学級6学級と特別支援学級がありますので、その数によって教員の数が決まります。仮に統合されたとすれば、全学年が2学級になりますから、12学級とあと特別支援学級ですね、その数によって教員が配置されることになります。

ですから、1校に、3校を1校にしたからといって、その3校分の教員数がそのまま足されて残るわけではありません。それからは必ず減ります。減った時には、一気に子どもたちに影響がありますよね。今まで先生が丁寧に見てくれていたのに、学級数が変わったとか、1学級の人数が多くなったから、先生の人数が変わったり、減ったりと、その時には、県の教育委員会と町の教育委員会の方で合議をしまして、例えば3年間とか5年間で徐々にその定数に持っていくと、それまでは余分の人数をつけてくださいよというふうな交渉をして参りますので、子どもたちが急激な教員数の減によって戸惑うようなことはありません。

ですから、そういうことが起ころうとしたら、それは全力で阻止します。そういうことですから、学級数に応じて教員数は決まるということと、あと、いろいろな加配とあって、その学級数以外で、例えば生徒指導が難しい学校に対しては、何人かの先生を余分に配置しますよとか、今ですと、不登校の子どもさんがいるときには、多少援助しますよとか、いろんな状況があります。それを琴平の町の学校の特徴としてしっかりと県の方へ訴えて、県に認めていただいて、県費の教職員をできるだけ多く配置する。それは我々教育委員会の仕事になっているわけですが、教員数については、現段階で琴平町においては不足ないという状況でございます。

(会長)

よろしいでしょうか。小学校の方の統合について、あと1人ぐらいどうでしょうか。ぜひご意見をいただきたい。

(保護者C委員)

私の今、1年生の子が、小学生になったのですが、28年の時に保育所に入ったくらいだったのですが、その時に多分町の方が説明に来られて、この子たちが小学校1年生になる時には、おそらく新校舎ができますという話で、それが新しい土地に新校舎として建つか、象郷小学校をちょっと綺麗にして建つかみたいな話だったと思うのですが、その頃にはそしたら、遠い子はスクールバスを導入しようと思いますと、結構決まった感じのプリントが保育所で配付されて説明もしていただいて、人数が減っているけど、5年後に合併するのだったら、ちょっと人数増えて安心だねって周りの保護者の方とかも話しをしていたのですが、それがどういうわけか、ぱたっ

と説明もなくなって、何でなくなったかっていう説明も全く記憶ではなくて、とっていたら今度、こども園の方は、幼稚園と保育所ですかね、そんなに大きな説明会はなく、あつという間にこども園として出来上がった。保護者的には小学校とかはあんなに言って決まった、という感じだったのに、結局進まず、こども園になるのは何かあつという間に進んで、保護者も全然ついていけない感じで決まった感覚ですけど、そのこども園にするのは、ぱつといけたのに、小学校が統合するのはなぜこんなに決まった感じだったのに、すごく時間がかかって、なおかつ全く進んでないのはなぜ、その違いは何なのかな、ちょっとお伺いしたい。

(会長)

これはもう、先ほど前回はそうですけど、町長さんの方からの説明もありまして、そういう保護者の不信感がやっぱりたくさんあると思います。それは私も聞きました。もう今度こそしてくれよというようなことでありましたので、そういう不信感が、今回は生まれないように、ぜひここでの意見をしっかりとまとめて、そして、今、もう自分の子どもさんがもう目の前に来年入学しようとかいうことなので、先ほどからお話をしていますように、できるだけもうこの、ここで決まったことを早くですね、実現してもらえるようにいけたらなというふうに思っております。今いろんな意見の中で、もちろん多少その条件の中でいろいろ厳しさはあるのですが、小学校を3校、もう統合していくという方向で、まずは小学校3校の統合ということについてはいかがでしょうか。

もうここでその方向でいくと、その場所とか、やり方というのはまた次の段階で話し合いをしていきますけれども。もう2校と1校とかじゃなくて、もうこの人数からいっても、非常に厳しい状況ですので、小学校については3校を一つにまとめていくという方向で、この会として考えているということで、まずはよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(会長)

はい。

じゃあ小学校については一応その方向を皆さんが確認したということできたいと思います。それでは、もう一つ、こども園につきましても、今二つあるのをこの機に小学校と合わせてですね、1園にしていくのはどうかということです。そのことについて、また先ほどと同じように、それぞれの立場でご意見をいただけたらというふうに思います。

いかがでしょうか。

(委員：北こども園長)

こども園が昨年度から幼稚園、保育所と一緒にあって、こども園としてスタートしました。その時に、その前に私自身が、幼稚園にいたのですが、このすぐ近くにあるのに、子どもたちが同じ年齢の子どもたちが幼稚園、保育所に分かれ生活しているのだなと思っていました。それがこども園になって、子どもたちの遊びはすごく広がってきたなと思いました。最初こども園になったときは、すごく厳しい条件だったかなと思いました。北は飛び地でしたし。南は1園でスタートしました。北が飛び地で当時はどうなるのかなと思いましたが、スタートすれば、子どもたちにとってはいろいろな経験ができて遊びが広がっているし、保護者さんも、最初子どもさんの送り迎えが2度になるっていうことで大変かなと思っていましたが、やっぱり子どもたちの日々の生活を考えると、やっぱり人数がいて、子どもたちが一緒に過ごせる。マイナスの部分はどうにか考えて、やり方を考えていったらどうにかなるかなと思う部分もありました。やっぱり少しでも多くの子供たちがいて、いろいろな遊びが広がっていく、それがいいのかなと思うので、今、北と南の2園になります。それが一つになれば、もっともついろいろなことができるのではないかなと思うので、ぜひ、小学校もそうですが、こども園も1園にしてやっていただきたいと思います。

(会長)

はい。ありがとうございます。

保護者C委員の方からこども園と幼稚園の説明があまりないままにスツとってしまったというのですが、実際お子様がそのこども園に行くようになって、どうですか変化は。

(保護者C委員)

子どもはやっぱり人数が増えたので、すごく喜んでます。

(会長)

ありがとうございます。

ちょっと行政的な手続きの部分で少し不信感が小学校とのギャップにより今の発言からあったようですけども。

そういうようなことも含めてですね、ぜひ、それぞれの二つのこども園が一つになっていく。それからまた小学校もそういう形で一つになっていくというのが、ここで決めて、そしてまたしっかりとした説明の中で確実に進めていけるように、町長さん、教育長さん、ここで今聞いていただいております。ぜひそういう形でいけるようにしていけたらと思います。

いかがでしょうか。こども園の統合について、園を運営していただいている立場から発言が、さっきの南こども園長からもありましたけど、保護者の方として、子ども園を一つにしていくというようなことで、いろんな送り迎えのこともありますし、いろんな当然メリットもあればデメリットもあると思いますのでそういうところをしっかりと出していただいて、ご意見をいただけたらと思います。

(委員：南こども園長)

今、北こども園長からの話にあったように、こども園になって子どもの遊びが本当に広がりました。きっと幼稚園だけだったら、人数が少ない中で、遊びが広がらなかったのですけれど、私は夢を持ちたいと思います。今の既存のこども園では、雨が漏ったり、それから、壁がはがれたり、こんなことをここで言っているかわかりませんが、思いっきり子どもたちを遊ばせる、広い園庭が欲しいし、子どもたちが本当に自分の遊びをするためには今の既存の中で生活するよりも、新しいところで、私は生活をさせたいなと思っています。それもさっき保護者Mさんからありましたように、1日でも早く、できることを望んでいます。以上です。

(会長)

ありがとうございました。

また、その場所的なものについては、今日ではなくて次回話をしていきますけども、そういうことができる遊びも子どもたちの生活そのものも変わってくるのではないかな。そういう意味でやはり、できるだけ一つにして、多くの人数の中でいろんな活動ができるようにという意見でないかなと思います。他いかがでしょうか。ぜひ、ここに来ておりますので今日ぜひ発言して帰ってください。皆さんが、召集されているということはですね、それぞれの立場の代表としてここに来ていただいておりますから。それぞれの立場で、ご意見をいただくというのはとても大事だと思います。

ぜひご発言をお願いしたらと思います。

(保護者M委員)

去年初めて南幼稚園の方から南こども園に行かせていただいたのですが、最初は初めて子どももまだ通って1年でいきなりこども園の方になるから、どんな感じかなと思っていたのですが、実際1年間子どもが過ごしていて、自分の子どもを見てわかるのですが、たくさんの友達がいるから吸収することもすごくたくさんあって、もうプラスにすごく成長しているのってというのが目でわかるくらい、夏休みが嫌と言うくらいこども園に行きたいって、今も言っています。やっぱり人数が増えたらできる遊びが増えているのと、お互い刺激し合っているのかなとすごく思います。

高校に上がったときに、すごくたくさん的人数になると思うのですが、小さいうちから、少人数よりちょっとでもたくさん的人数の中で生活していったら、人間関係を築きやすいと思うのですが、いきなりたくさん的人数に行ったら、最初戸惑うと思います。ちょっとでも早い段階でこども園も合併してくれてたくさん友達ができたらいいなと思います。

やっぱり年々ジェンダーの問題があり時代だからあんまり言えないのですが、やっぱり男女の遊びも違うから、それぞれ男の子も女の子も同じぐらい人数がいたらできる遊びもたくさんあるし、またちょっと小学校の話に戻るのですが、小学生とかの思春期だと、その時にやっぱり家族に言えない話とかあってあると思うのですが、やっぱり同性の友達とかにしかできない話もあると思うので、やっぱり人数増えたらプラスになっていくのかなと思うので、こども園も早く進めて行って欲しいなと思います。

(会長)

実際に子どもさんそれぞれの人数の違いによって、成長の度合いも変わってくるというようなことで、具体的なお話いただきましてありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(保護者A委員)

一つにして、こども園・小学校・中学校と琴平の子どもたちがずっとスライドで上がっていくのはいいかなと思うのですが、逆にずっと一緒っていうのもどうかなっていうのはちょっと疑問で、いじめなんかが起こった時にずっとその子がいるのであればずっと登校拒否っていう可能性も無きにしても非ず、なので、そこらの心配ありますけど、ちっちゃい町ですので、ぜひ統合してスライドっていうのはすごいいいかなと思います。

(会長)

その点については先ほど琴平小学校校長先生からもありましたように、例えば、子どもの中で人間関係が上手くいなくても、1クラスだと仕方がないのです。ところが2クラスですと十分そういう配慮をする中で、少しでも人間関係をリセットし直すチャンスはあると思いますので、いずれにしても、この人数ですから、小学校・中学校行っても2クラスです。今も現実そうですけどね。だからせめてやっぱり複数学級で学校生活を送れるようにということはとても大事だと思います。人数が先ほどもありましたが例えば25名だと、実際は1クラスになるのですが、他市町の様子を見ていると、ちょっと規模がちっちゃいけれども、やはりあえて二つに分けたほうがいいということで、その市町の教育委員会の判断で、人数は少ないけど、2クラスにしてやっておるといふところもあります。

先ほども教育長さんからありましたように、人の配置は県からは既定の人数しかくれませんので、二つにするならどうぞ、その代わりその人は市町でちゃんと雇ってくださいねということで2クラスにして、学級をそれぞれ運営しているところもあります。

だからいずれにしても、やはりそういう複数のところでやると、いろんな環境の多様な設定ができるということではいいと思います。いかがでしょうか。

(保護者R委員)

私自身、子どもがあかね保育園に行っているのですが、こども園のこと言うのもおかしい話なのですが、逆に今度こども園が一つになって、あかねさんはあかねさんであって、選択できるっていう状況がやっぱり出てくると思うのですよね。それぞれの園の特徴があるから選んでいる。だからもしかするとさっき保護者A委員から、やっぱりずっと一緒じゃないほうがいいと思う親御さんはやっぱり他の園に行くだろうし、周辺の私立などに行くのかもしれないのですが、将来的に例えばこども園を一つにしましょう、小学校も統合します。今も0歳児が小学校に上がるときに、1クラスかもしれないっていうのであれば、やっぱりこれから子どもたちをふやさなきゃいけないし、移住してくれる方や、新しい家を建ててくれる方を増やしていくって思うのだったら、やっぱり、新しいこども園を一つにします。小学校統合します。琴平町は子どもを育てやすい環境にこれから整備しますということを、せっかく四国新聞さんが出てくれたりとかするのであれば、それを売り出していけば、もしかすると今の0歳の子たちが小学生になるときは倍

は言わないですけども、もう 1 クラスできる余裕を持つくらい移住してくれたらいいかなとか、そういう売り出し方がいいのではないかと考えています。だから 1 園になりますとか、近しいところとか、他の市とかだったら隣合わせだったり、目の前同士だったりっていうところもあるので、そういった本当にきちんと描かれたものを出して子どもを増やさないと意味がないので、それこそ今アパート住んでいる方が、まんのうで家を建てますと言われたら、この人数から減る可能性も十分あるわけですよ。

だから、そこらあたりその魅力のある琴平町はこんなふうに、子育て応援しますよって言うためにはやっぱりこども園も一つというのがやっぱりいいのかなってというのは個人的には自分の子ども関係ないのですが、意見としては思います。

(会長)

ありがとうございます。

これは統合以外に、町長さんにまたぜひお考えいただいて、移住者が増える琴平町に、またいろんな手だてを考えていただけたらと思います。いずれにしても小学校も含めて、やはりの一つにして、そのさらに魅力ある子育て環境を作ったらどうかという意見でないかと思います。どうでしょうか。保育園・子ども園の統合について。

(委員：あかね保育園長)

皆さんの意見を聞きながらすごくいろんなこと考えながら聞いていましたので、みんなの思いが一つにまとまって進んでいくのだろうなという感覚がわかりました。思ったことをストレートに話して申し訳ありません。保護者M委員のお話、もう来年の話ですよ。保護者R委員のお話、結局その移住者の話であったり、将来のための話なので、小学校一つこども園一つでも、やっぱり移住者を増やすのだったら魅力ある町にするためには、どうすればいいのかってところだと思います。

だから、議論のところ、今この人数だからこうだということではなくて、やっぱり増やすところも必要かなと思っております。その一つがこども園で、我々は就労支援という視点を持っております。保護者が安心して子どもたちを預けて、そしてお仕事できる、なおかつ我々も教育をやっております。保育もやっております。しっかりと子どもたちの土台を作って、将来活躍できる子どもたちを作っているというところで、あかね保育園は私立として存続をする。こども園が一つということ、二つあります。保護者は、選択することができます。あと、令和 3 年度で町北部に町立の新こども園ということで、これ私よく考えられていると思いました。というのは、やっぱり南北に長いというところで、南に拠点一つ、北に一つというところで、先ほどもちょっとご意見ありましたが、小学校の問題も、そのまちづくりとやっぱり連携で全部繋がっていることなので、そこも全部含めて、多分、保護者の方のご意見が出てきているのだろうと思います。

まず、榎井と琴平をというご意見もしっかりと保護者の方であるわけですので、要するに令和 11 年まで待てないというのは、ここで今出てきているご意見なので、既存の校舎を使うとかそういういったいろんないいアイデアがありますので、そこをこの会としてまとめていただけたら私は嬉しいかなと思います。やっぱり子どもたちも若い人もそうです。人数が減っています。寂しくなっております。でもやっぱり少ないから少ないだけじゃなくて、やっぱり呼び込むというか、魅力ある琴平町を作って、私町長さんの小さくても、みんなが笑顔である町っていう大好きなのでそのキャッチフレーズが、小さくてもやる方法はたくさんあると思います。私もこの問題はすごく気になって、他の自治体はどうしているのだろうと、1 回調べたことがあります。要するにへき地とか、山間部、要するに統合しようにもしない、できない町などです。例えば、宮崎県の五ヶ瀬町というところがあって、人口 4700 人の町に小学校が三つあります。OECD の学力調査でも、人口の 20 人程度の少人数学級の学力がいいってデータは出ていて、学校でもその少人数ってところは、先生が手厚く教えていただけるってことがあって、その少人数のよさと大人数をどうやってやるか。

だから、常は少人数で、イベントとかのときは、大人数で集まってやるとか。そういった工夫をしているというところ、もう一つ 1 校になることのデメリットの部分が、議論が進まないままいくと、令和 11 年までその問題がずっと続いていくってところが私は心配です。我々、児

童福祉、福祉っていうのは、やっぱり当事者が、保護者の方が今何に困っているかというところをストレートに聞いて、それを町政の方にご反映していただけたら一番いいかなと思います。だからその町の構想とかそれはあるのはもちろんわかるのですが、とてもよく練られていると思います。やっぱり住民のリアルな意見とかそこを聞いていくことが私は大事なかなあと思って。そういった意見がこの会議で反映してくれたらうれしいかなあと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。

当然メリットがあればデメリットもあるわけですので、そういうことも含めて先ほどからお願いしておりますように、いろんな意見を言っていただく中で、この会としての一つの方向性を定めていけたらなというふうに思っております。いかがでしょうか。

(委員：あかね保育園長)

ちょっと先ほどつけ足しですけども、公立小学校・中学校の適正規模適正配置等に関する手引きというのがあって、琴平町の学校の再編も、この手引きに沿って非常に丁寧に、今進めていただいております。それは私もよくわかっております。その中でやっぱり一番大事な住民の合意形成を取ってからというところで、多分進まなかったところと、住民説明をしたときに、それがポツと終わってしまったと住民の合意形成がなかったのではないかなあとは思っているところ、もう一つあります。学校を統合することで、さらなる少子化が進む場合は、統合すべきでないということがあります。だから生活拠点なのです。我々保育園などの子育て拠点はたくさんあった方がいいと思います。保護者が選べる。使える。便利でというところで。

だから小学校の統合を進めることで、さらなる少子化になってしまうと、それこそ先ほど移住者がいなくなっていくので、そこの自治体に小学校がどこにあるとか、位置とか数っていうのは非常に重要なまちづくりのところになってくると思います。例えば、横浜市は大きな自治体ですけども、人口8000人につき1校という割合で、琴平町の人口が今、8000人、4月で8200弱ぐらいでしたか。

だから、もし1校になると、その大きな自治体レベルの8000人あたり1校というレベルになってくるので、大きな規模の計画かなあとは思っています。

(会長)

はい。ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

それでは大分お時間も経ってきておりますので、今日お話し合いしたことで確認をさせていただきたいと思います。もうとにかく来年、自分の子どもが入学することを考えるともう1日も早く、次の方向に向かって進んで欲しいということですけども、そんなに明日からというわけにはなかなかいかないと思いますが、方向性としては、委員さんの皆さんの意見を聞くと、とにかく小学校を一つにして、もちろん二つと一つという意見もあるのですけれども、もうこの人数の状況を見ていくと、なかなかそれも厳しいのではないかなあというふうな状況でないかと思っております。

それから、こども園につきましても、実際に子どもが今、保育園と幼稚園が一緒になってこども園ということになった時に、子どもの様子も随分いい意味で変わってきているというような現状もあるようです。もちろん琴平町はさらに魅力あるまちにするためにも、選択肢、町立のこども園もあれば、私立の保育園もあってそういう魅力のあるところでそれぞれが頑張って子育てができる環境。さらにですね、移住者、琴平は住みやすいとこやと、琴平は教育に厚いところというふうな形で移住者についても、さらに増えてくるような方向、これはまたこの会の話とちょっと違いますけど、町長さんにもまた頑張ってもらわなければいけない。

いずれにしても、今日、お話の全体の様子を見ますと、小学校を一つでいく。

それから、こども園も一つでいくという方向で、大筋考えていくことができるのではないかなあというふうに思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、もう本当に最善のお願いしているように、私はもうとにかく早くこういうことが実現で

きるようにしていきたいと思いますので、今日、大筋こういう方向で出ましたので、ぜひ皆さん、この話を持ち帰ってですね、皆さんの近く、周りの人といろいろ話をしてみてください。

次回はですね、どこに作るのかという場所を具体的に皆さんが今考えられていることをお聞かせください。

そしてもちろんこれは、先ほどご心配もあったように新しいところですのであれば、時間的に大丈夫かということもありますので、そういうことも含めて、まず我々としては、新規の土地に作るのであれば、どこに作ったらいいのかというようなことをしっかりとまた議論して、これはなかなか一つに決めるのは難しいかと思います。

いろんな条件がありますので。複数案も含めて、次、こういうところやったらこんなことでいけそうやと、ここやったらこんなことでいけそうですと、いくつか複数案を持ってこの委員会として、こういうところやったらできそうやとということを考えていけたらというふうに思います。ですから、次回のところまでに、またそういうことをぜひお考えいただけて、しっかりとここで議論できるように準備をしていただけたらというふうに思います。

事務局の方、次回の予定についてお願いします。

(事務局)

次回の開催ですが、8月8日の火曜日、19時から、こちらの会場で行うようになっております。あと2週間ほどありますが、また今会長がありました通り場所ですとか、改修になるのか、改築なのかとかそういう議論になろうかと思っておりますので、またそろえてほしい資料等がありましたら、事務局までご連絡いただいたら当日資料を準備したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(保護者A委員)

現在の小学校の築年数は出しているのですが、もし令和11年より前に、現状の小学校で統合するのであれば、どこだったら対応できると、多分琴小は僕の時2クラスだったので、十分2クラスの教室は確保できるかなと思うのですが、そうしようと思うと改修費がいるとか、あとインフラですね。象郷の方がこっちへ来られるのに、今mobiというものもありますので、そういうのを使いながら、通学ができるかどうかというそこら辺の情報が資料としてあれば、もうちょっと話しが早いかなと思います。

(会長)

今の件、また可能な限りそういう条件で提案できる、お示しできるものがあれば、準備をいただけたらと思います。よろしいでしょうか。

(保護者R委員)

毎回次の会は、とお知らせいただいて書類が来るのですが、もう少し長く予定ってわからないですか。どうしても仕事ある関係でちょっと2週間後のことっていうので毎回となってくると、ちょっと仕事で参加ができない場合もあります、夏なので家族旅行も行きたいなとか。

(会長)

それは事務局の方で一応予定しておる日にちについて今周知できますか。もう2週間に1回のペースですので、本当にご負担をおかけすると思います。

(事務局)

はい。第3回が先程申しました通り8月8日です。それ以降も一応決めていますが、ちょっとまだ固まってない部分がありますので、もう一度確認して、第10回目ぐらいまでの予定を送付らせていただきますのでよろしく願いいたします。

(会長)

ちょっと町長さんのご都合もあって、できればここで出席のもとで、この会を進めていけるようにしたいと思います。大変申し訳ありません。もし委員さんの都合が悪ければ、委任状を出していただくことで会の成立という形にはできますので、できるだけご都合をつけてご参加いただくということでもよろしく願いしたらと思います。

それでは今日は本当にいろいろ率直なご意見ありがとうございました。方向性として、ある程度の方向が出ましたので、次回は、先ほどお話しましたように、どこでその具体的な場所を考えていくことができるかというようなことについてのお話をしたいと思います。8月8日火曜日の19時から、再度この場所で行いますということです。どうぞよろしく願います。本日はありがとうございました。気をつけてお帰り下さい。